

令和3年度 幼児・児童教育研究センターの取組

幼児・児童教育研究センター 所長 古川元規

幼児・児童教育研究センターは、昭和56年（1981年）に設置され、別府大学短期大学部の研究活動の拠点として40年間歩んでまいりました。センターの主な内容としては、1 幼児・児童の発達とそれに応ずる教育の研究、2 教育課程・保育課程及びその指導方法等の研究、3 教材・教具の開発、製作指導及び資料の提供、4 幼児・児童教育に関する資料・図書等の収集、整理提供、5 幼児・児童の教育に関する講演会等の開催、6 地域における子育て支援事業、7 幼児・児童に関する相談事業、8 その他センターの目的達成のために必要な事業があります。

今年度は、昨年度同様、午前中に小学校教員対象に1本、午後に保育者対象に1本の公開講座を開催しました。午前中は本学と明星小学校教員による「これからの小学校教育の方法を探る」をテーマとした講演を、午後は本年度より本学で取得できるようになった「認定絵本土」資格を認定する絵本専門士委員会の委員でもある学習院大学秋田喜代美教授による「幼少期における読書活動の推進」をテーマとした講演を開催いたしました。

今回も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、参加人数の制限を行い、秋田喜代美氏の講演は東京の会場と別府大学3号館ホールを繋ぐリモート講演にて実施し、県内の小学校、保育、図書館関係者、初等教育科・専攻科学生を中心に延べ約130名の方にご参加頂きました。

午前の講演では、学生にICT機器を活用した3教科の授業実践の取組や明星小学校での国語の授業実践例からICTを活用した授業の有効性や留意点、今後の課題について報告されたほか、明星小学校加藤教諭からはICT活用についての現状の課題と今後の方向性などの報告が行われました。

午後の秋田喜代美氏の講演では、幼少期の保護者などによる読み聞かせが長期的に言語能力や読書習慣などに影響を与えることが研究データや事例で説明されたほか、国内や海外で行われている読書推進活動についての紹介などが行われました。参加者からは「幼少期の読み聞かせの重要性がよく理解できた。」などの感想を頂きました。講演内容については、本レポートに掲載しております。

実践報告では、境川保育園、春木保育園、別府大学附属幼稚園、明星幼稚園、明星小学校の先生方から、大変特色ある取組についても報告いただきました。また、別府大学短期大学部初等教育科教員による研究論文等も掲載しております。保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の養成校としての教員の研究活動についても御覧いただけますとありがたく存じます。

今年度も本学の菅原講師による「子育て相談」を実施しました。昨年度より多くの方々が相談に見えられ本学の相談事業の認識が広がりつつあります。加えて、現在、幼児・児童に読んでほしい図書をそろえているところです。今年度購入しました図書リストも巻末資料に掲載しておりますので、参考にしていただければ幸いです。

また、今年度から、本学と明星小学校、及び本学と附属幼稚園との連携プロジェクトを立ち上げました。連携を深めることで、研究を推進し、教職員の資質向上に寄与するものと考えております。連携の内容についても本レポートをご覧ください。

これからも、当センターでは、研究活動の拠点として様々な活動を行っていく予定です。奮って御参加いただきますようお願い申し上げます。